

日頃、地域医療連携室へご支援・ご協力をいただきありがとうございます。
 地域医療連携室 大沢 知佳

先日、秋田県農村医学会第117回学術大会が開催されました。昨年度に引き続き、ワークショップでは、地域医療連携をテーマに討議が行われ、秋田県厚生連の紹介・逆紹介の現状や今後の課題、各病院の退院支援の取り組み等について発表がありました。今回は、当院の発表内容を一部抜粋し、報告いたします。

地域医療連携室 大沢 知佳

秋田県農村医学会 第117回学術大会の発表報告

日時：平成24年7月6日（土）9:40～11:10
 場所：秋田県JAビル 第一会場 ワークショップ

多職種協働による退院支援を目指して

平鹿総合病院 地域医療連携室 高山 国子

2013年4月、地域医療計画の改定によって、地域包括支援ケアを実現するために、多くの専門職との人的連携の必要性が示された。

当院では、医療依存度が高く、日常生活管理に医療の連携が必要な患者さんに対して、院内外での多職種による退院時のカンファレンス（退院時共同指導）を実施している。退院時共同指導では病気や障害、老いをどのように受け止め、どのような療養生活を送りたいか、ご家族の漠然とした思いを言語化して其々の職種が問題点を提示し、在宅支援の限界を明らかにする。医療職と介護職の双方の意見の違いを職種間で共有することによって、お互いの役割分担が可能となり、チームとしての合意形成につながる。また、患者さんやご家族にとっては、「困った時に相談できる人がいる」という思いが、その後の在宅療養の質を高める上で、大きな力となっている。

こうした取り組みは、患者さん・ご家族だけでなく、機関・職種の関係形成の場として重要であり、専門職としての問題解決スキルを高める上でも効果的であると考えます。

当室としては、参加者が一つのチームとして、その成果や有効性を実感できるような、企画運用が今後の課題である。

地域を一つの単位として、在宅医療に取り組むことが必要な時期にきている。

地域医療計画が示す2025年までに、多職種の枠を超えたセーフティネットワークが構築できるよう努力していきたいと思う。

開催における当室の役割

開催日程の調整

患者情報の依頼と整理

開催当日の司会進行

退院時共同指導書の作成とご本人・ご家族の同意

退院時共同指導書の郵送 ・加算算定方法の説明

退院後のご本人・ご家族の状況確認



各職種の提案内容



ご本人・ご家族

• どんな在宅療養生活を送りたいか

当院の主治医・看護師

• 治療経過・看護の経過と問題点

かかりつけ医

• 継続治療の方針・問題点

ケアマネージャー

• 在宅サービスプラン提案

訪問看護師

• 指示書に基づく看護ケアの提案

保険薬局薬剤師

• 院外処方と薬剤管理方法

理学療法士

• 在宅でできる機能訓練方法

管理栄養士

• 食事内容の工夫・商品の紹介

包括支援センター・ワーカー

• 訪問による相談・見守り